



京都大学原子炉実験所  
創立50年

凡てのことは  
今こゝには  
こめられてあり  
今こゝは  
おのずからある

一九六四・六・二十五 原子炉は臨界に達す  
建設委員長・藤本武助 初代所長・木村毅一

# アトムサイエンスフェア講演会2013

10/26(sat) 14:00~16:30

熊取交流センター(煉瓦館)「コットンホール」

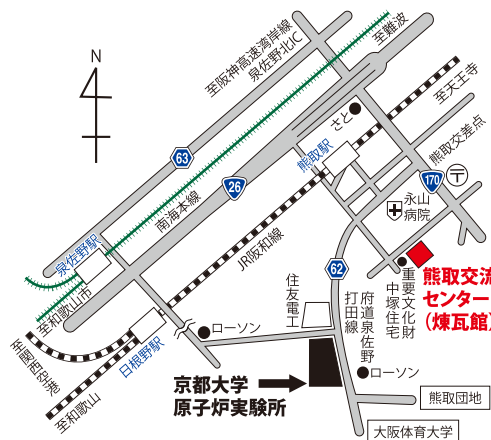
定員:180名(先着順) 対象:中学生~一般

※お申し込み不要です。当日会場へお越しください。

参加費  
無料

開会挨拶	14:00~14:05	森山裕丈(京都大学原子炉実験所所長)
講演1	14:05~15:05	<b>難治性がんへの挑戦ーホウ素中性子捕捉療法ー</b> 講師:鈴木実(京都大学原子炉実験所教授)
休憩	15:05~15:15	
講演2	15:15~16:15	<b>加速器駆動システムの開発ー放射性廃棄物の負担軽減に向けてー</b> 講師:大井川宏之(日本原子力研究開発機構原子力研究開発部門研究推進室長・京都大学原子炉実験所客員教授)
質疑応答	16:15~16:30	進行:福永俊晴(京都大学原子炉実験所副所長)

お問合せ先 京都大学原子炉実験所 総務掛  
〒590-0494 大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目 TEL:072-451-2300(受付時間:平日8:30~17:00)

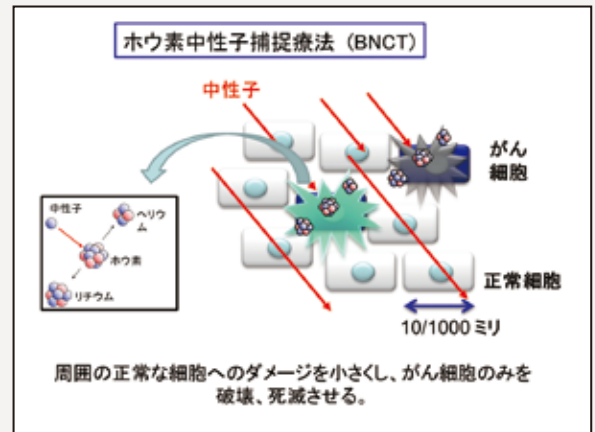


熊取交流センター(煉瓦館)「コットンホール」  
〒590-0415 大阪府泉南郡熊取町五門西1丁目10-1  
TEL:072-453-0391

講演1 14:05 ~ 15:05

## 難治性がんへの挑戦—ホウ素中性子捕捉療法—

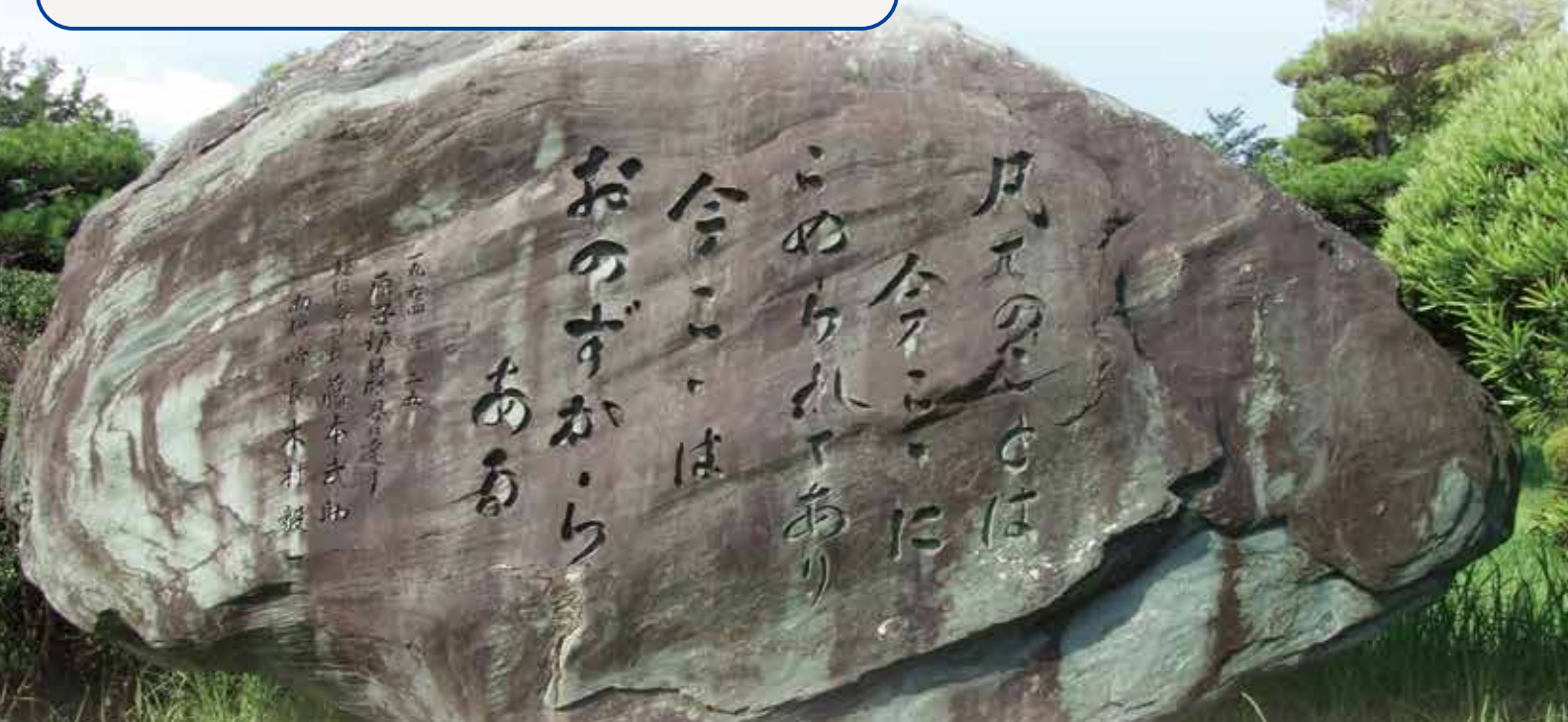
本講演では、2つの「難治性がん」をとりあげます。1つは、最初にうけた手術、抗がん剤、放射線治療などの標準治療（現時点で治療効果が確認され、最も適切な治療であることが証明されている治療）を受けた後に、残念ながら再発した「がん」です。もう1つは肝臓や肺に、多数あるいは全体にひろがった「がん」です。これら、2つの「がん」に対するホウ素中性子捕捉療法（BNCT）による挑戦的な取り組みを紹介します。



講師 鈴木 実

京都大学原子炉実験所教授

1990年京都大学医学部卒業、京都市立病院医員。1999年京都大学大学院医学研究科博士課程修了、近畿大学病院講師。2002年京都大学助手（原子炉実験所）。2003年ミネソタ大学研究員。2004年京都大学助教（原子炉実験所）。2008年京都大学特定准教授（原子炉実験所）。2013年京都大学教授（原子炉実験所）。現在の専門、ホウ素中性子捕捉療法の適応拡大の基礎研究および臨床試験の実施。



講演2 15:15 ~ 16:15

## 加速器駆動システムの開発—放射性廃棄物の負担軽減に向けて—

原子力発電の結果生じる高レベル放射性廃棄物には、千年以上にわたって放射能を保持し続ける長寿命の放射性物質が含まれています。これを廃棄物から分離して短寿命化する「核変換技術」が、廃棄物処分の負担軽減の観点から注目されています。日本原子力研究開発機構では、「加速器駆動システム (ADS)」という新しい原子力システムを使った核変換技術を提案し、京都大学原子炉実験所などと協力して、その実現に向けた研究開発を推進しています。



講師 大井川 宏之

日本原子力研究開発機構原子力研究開発部門研究推進室長・京都大学原子炉実験所客員教授  
1985年京都大学工学部原子核工学科卒業、1987年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同年より日本原子力研究所（現、日本原子力研究開発機構）にて、高速炉の炉物理、分離変換技術の研究、J-PARC核変換実験施設の検討などに従事。2001年京都大学博士（工学）取得。現在は、原子力の基礎基盤研究を推進する業務のかたわら、核変換技術の実現に向けた研究に取り組んでいる。